

DDW-Japan 2001 アンケート調査報告

DDW-Japan 2001 運営委員会

- 第32回 日本消化吸収学会総会
会長 勝 健一 (大阪医科大学第3内科)
- 第62回 日本消化器内視鏡学会総会
会長 北島 政樹 (慶應義塾大学外科)
- 第43回 日本消化器病学会大会
会長 馬場 忠雄 (滋賀医科大学第2内科)
- 第39回 日本消化器集団検診学会大会
会長 丸山 雅一 (早期胃癌検診協会)
- 第5回 日本肝臓学会大会
会長 矢野 右人 (国立病院長崎医療センター)

DDW-Japan 2001京都は、5学会の参加での開催となりました。各学会の会長の先生方、運営委員の先生方、および、事務局をはじめ多くの関係各位のご協力のお陰をもちまして過去に類を見ない13,007名の参加者をお迎えし盛況裡に学会を終了することができました。

今回も例年同様にアンケート調査を実施いたしましたところ、多数の学会員の方々からいろいろなご意見を頂戴いたしました。DDW-Japan 2001全体についての満足度をみますと、73%以上の方が普通以上の満足を示しており、DDW-Japanそのものに対する開催の意義を理解しご賛同いただいていると思われました。しかしながら、一部の方からは各学会の日程または講演テーマに対する要望等の問題提起もされております。

今後より良い形でのDDW-Japanとするべく、各学会で協力と連携を深め、演題採用形式、発表形式、経費の削減などに最善の努力を計って参りたいと考えております。今後ともご意見、ご教示を賜りたくお願い申し上げます。

はじめに

9回目を迎えたDDW-Japan 2001 (日本消化器内視鏡学会連合)は、2001年10月17日(木)～20日(土)の4日間にわたり、京都(国立京都国際会館、京都宝ヶ池プリンスホテル)に於いて開催されました。参加学会は、日本肝臓病学会、日本消化器集団検診学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、そして日本消化吸収学会の5学会でした。参加人数は13,007人となり、前回(12,541人)よりも約500人増でした。人数的には過去最高の参加者数となります。アンケート調査の回答数は前回(498名、4.0%)とほぼ同数(440名)でした。アンケート調査は31項目に回答を得るようになっておりましたが、以下にそれらの中から抜粋した項目について、結果を報告します。

◆今回の学会を主な目的で参加されましたか(複数回答可)◆

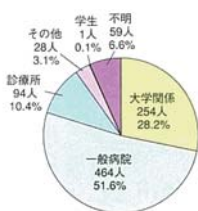
目的とする学会のなかでもっともその割合が高かったのは、図1に示すように、消化器内視鏡学会32.4%、つぎが消化器病学会31.9%、3番目は肝臓病学会14.8%でした。以下、DDW-Japan全体を目的としたもの7.3%、消化器集団検診学会5.6%、教育講演3.3%、消化吸収学会1.2%の順でした。消化器内視鏡学会と消化器病学会の差はほとんどありません。3番目の肝臓病学会となると、前二者の半分をやや下回る程度です。

【図1】どの学会を主な目的で参加されましたか(複数回答可)

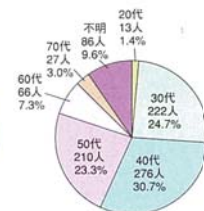


つぎに、図2に医療機関別に各学会への参加者数を示しました。これによりますと、消化吸収学会を除き、一般病院からの参加者数が大学病院からの参加者数を上回っています。この事実は、非常に重要です。現時点では、実際に学会発表を行った参加者数と医療機関の関係を分析したデータがありませんから断定的なことを書くことはできません。しかし、このことは今後、年間を通じての各学会開催の回数の妥当性という点からも分析が必要です。大学と一般病院の差は何かとなるとかなり難しいですが、前者に属する会員の方が時間的な余裕をもって学会に出席できるのではないかと推測されるかもしれません。

【図2.a】医療機関別の参加



【図2.b】参加者の年代別



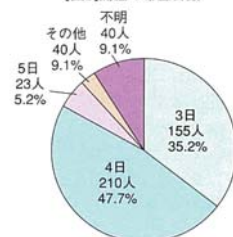
一般病院に働く医師達の場合、年間を通じて何回の学会出席が可能であるのかについては個々に異なるでしょうが、かなりの制約があることは想像に難くありません。厳しい日常勤務のなかで予定を調整してDDW-Japanに参加しようとする一般病院の医師達のためにも、この学会は総合的にでない特色を出すべきでしょう。

◆開催の希望日数と曜日について◆

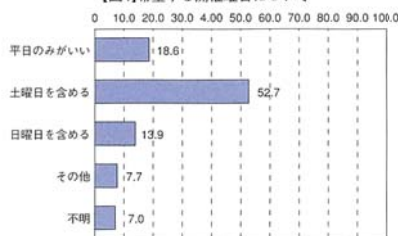
回答数440人のなかで、3日35.2%、4日47.7%、5日5.2%であり、4日間の開催が望ましいという回答が約48%です。ほかに、「2日がいい」、「1日がいい」、「5日以上がいい」、という回答も若干ありました。

「土曜日を含める」という回答が全体の52.7%をしめました。続いて「平日のみがいい」が18.6%、「日曜日を含める」が13.9%でした。つぎに、施設別にみると、「土曜日を含める」と回答しているのは、「一般病院」54.9%、「大学関係」54.1%と差がありません。しかし、「日曜日を含める」では、「診療所」50.0%と圧倒的に多く、「一般病院」14.2%、「大学関係」3.1%であり、「診療所」とはかなりの差がありました。この結果は、今後の開催日程の決定に際して考慮すべきことでしょう。

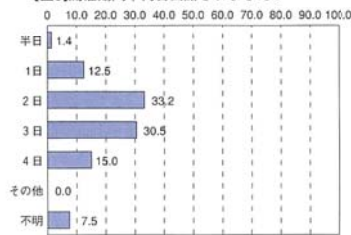
【図3】開催の希望日数



【図4】希望する開催曜日について



【図5】開催期間中何日出席されましたか



◆参加費について◆

意見として、「高すぎる」16人、「安くできるなら安くして欲しい」14人でした。他に、「1万円台にして欲しい」、「1日券にして欲しい」、「学割を作って欲しい」、「チケット制にして欲しい」などの意見も若干ありました。

【図6】参加費についてご意見

- 安くできるなら安くして欲しい(14)
- 1日券をつくるべき(参加日数で決めて欲しい)(5)
- 20,000にして欲しい(4)
- 1万円台にしてほしい(6)
- 15,000以下にして欲しい(4)
- 学割を作って欲しい(2)
- 高すぎる(16)
- チケット制にしてほしい(2)

◆演題申込について◆

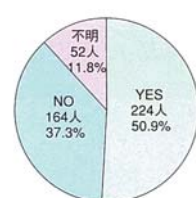
DDW-Japan 2001に演題申込をしましたが、という問いに対する回答については、回答者440名中、「No」57.3%、「Yes」30.5%、「不明」12.3%でした。つぎに、演題の登録は自分でなさいましたか、の問いについては、「No」59.1%、「Yes」18.2%、「不明」22.7%で、「No」が予想以上に多い結果となりました。演題登録の操作制に関しては、「やや悪い」2.4%、「悪い」2.4%ですから、「No」59.1%という数字は、パソコンを使うこと自体に抵抗を感じる医師もかなりいるということを反映しているのでしょうか。

◆ホームページについて◆

意見を述べた人はかなり少なく、「消化器病の診断基準、ガイドラインを掲載して欲しい」3人、「日程を早く出して欲しい」3人などがあり、他に「有用な情報が少ない」、「書き込みをもっと便利にして欲しい」などの意見がありました。

DDW-Japanのホームページでは、過去の抄録の検索が可能ですが、CD-ROM抄録集の配布についての意見として、「続けた方がよい」46.6%、「何とも言えない」23.0%、「必要ない」19.3%でした。筆者の私見ですが、配布するならば、完備なものが望ましいと思います。と言うのは、本年、バンコックで開催されたWCGでは、CD-ROMに収録されているのは、一般演題とポスターの抄録のみで、シンポジウム、講演などの抄録も演者の名前もありません。また、プログラムも書かれていません。高い参加費の割に、不親切極まりないものでした。

【図7】DDW-Japan 2001のホームページにアクセスしましたか



◆今後DDW-Japan開催を希望する都市について◆

上位5都市は、「大阪」15人、「京都」12人、「神戸」11人、「横浜」8人、「福岡」7人の順でした。何故、大阪がトップなのかは不明です。ハワイという意見もありました。

◆主題数（シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ等）について◆

「ふつう」50.9%が半数を占めました。続いて、「やや良い」21.6%、「良い」10.9%の順で、「悪い」という回答はなしでした。

◆合同セッションについて◆

「継続した方がよい」78.4%と肯定的な意見が圧倒的に多く、これを否定する回答「必要ない」はわずか5.9%でした。これは継続が望ましいと判断されますが、「会場が多すぎる」、「本当に良い演題に絞って欲しい」という意見も参考にすべきでしょう。

なかでも多かったのは、「教育講演」35.2%、「主題」31.7%、「合同プレナリー」24.1%の順でした。「教育講演」の希望がもっとも多かったことは、参加者が、最先端の研究結果とともに、知識を確認し、新たにしたいという希望を持っていることの表れかもしれません。

セッションの割付時間については、「参加したいセッションがうまく分散していた」33.9%、「参加したいセッションが重なっていたことが多かった」20.5%、であったが、「不明」45.7%がもっとも多かったことを考慮すると、参加者全員が満足するような形のセッションを組むことは不可能なのかもしれません。

◆ランチョンセミナーについて◆

「ふつう」34.1%、「やや満足」20.0%、「満足」13.2%の順でした。「不満」という回答は、5.7%ありました。また、施設別にみると、「ふつう」と回答した割合は、「大学関係」41.4%、「一般病院」35.3%、「診療所」19.6%でした。この割

合は、「やや満足」に対する回答では「診療所」30.4%「大学関係」20.3%「一般病院」17.6%と施設による若干の違いがありました。ランチョンセミナーは、これを提供する側の意向がありますので、この程度でよしとすべきでしょう。

◆サテライトシンポジウムについて◆

「ふつう」32.5%、「やや満足」13.6%、「満足」8.4%の順でした。ランチョンセミナーに対する評価とは若干異なる数字ができました。しかし、個々の意見としては、「数が少ない」、「席が少ない」、「整理券が手に入らない」、「参加したいものが複数あり選択に迷った」など、チケットについての不満で色々な形の意見がありました。今後、これも大きな課題として残ります。特に、弁当などなくても聴きたい、という意見もあったことを付記しておきます。

◆ウエルカムランチの利用について◆

「利用しなかった」61.1%、「設置場所がわからなかった」15.8%、「利用した」7.5%、という結果でした。これについても不満を述べる意見が多くありましたが、ランチという感覚が参加者のなかにまだ根ついていないのかもしれない。食事をゆくりとって、聴きたいものを絞って聴くということにすれば、ゆったりとして学会の雰囲気を楽しめそうですが、これは日本人には無理かもしれません。

◆会場の運営全般について◆

「ふつう」37.0%、「やや満足」26.4%、「満足」10.0%の順であるのに対して、「やや不満」5.5%、「不満」3.4%という結果でした。「ふつう」以上満足度が大部分を占めていますから、とくに主催者側とすれば安堵できる結果と考えたいですが、どうでしょうか。しかし、個々の意見としては、「参加費が高すぎる」、「もっとこじんまりとしているほうが良い」、「これだけの学会を一緒に行うのは無理」、「スライド係がなっていない」など、15件の不満が寄せられました。

◆DDW-Japan 2001全体について◆

「ふつう」34.1%、「やや満足」26.6%、「満足」12.5%の順であるのに対して、「やや不満」5.5%、「不満」2.3%という結果でした。この設問に対する回答も、「ふつう」以上満足度が大部分を占めています。不満の声は14件ありましたが、もっとも多いのは、「参加費が高い」という不満でした。

◆DDW-Japanの方式について◆

「続けたほうがよい」69.8%、「何とも言えない」13.2%、「止めたほうがよい」7.3%という結果でした。不満の声としては、「参加費が高い」はここでもあり、また、「DDWは絶対止めるべき」などの過激な意見もありました。「学会は年1回で十分」、「隔年開催でもいい」などの意見もありました。

◆その他の意見からの結論◆

その他の意見としての最後設問に対して、非常にたくさんの方が回答がありました。すべてを紹介することは不可能です。ともかくも、これらの意見を集約するものとして、今後に生かすべきものは何か、ということがアンケート全体としても最も重要なことでしょう。また、全回答のなかでも随所に述べられているのは、DDW-Japanの開催期をどのようにするべきか、ということになりそうです。

週末以外でも比較的余裕がありそうに思われる大学関係者、できるならば、週末、それも最終日を日曜日にして欲しい一般病院・診療所の従事者、これら二つの集団のいずれを優先させるべきかが問題でしょう。単に、参加者の数を考慮するだけでなく、学会の目的としても、最先端の研究の情報源としてのDDW-Japanなのか、あるいは同時代の医師として平均値以上の知識を吸収してもらい日常の臨床にこれを生かしてもらおうとするのか。それぞれの目的と比重のかけ方を再考すべき時なのではないでしょうか。